

結

絞首台の鐘が、からころ鳴っています。

追い詰められた新顔／ラウルは、
あなたに牙を突き立てました。

獣の精霊であるあなたを殺すことはできません。
けれど、少女の手には人を殺したという罪悪が残った以上、
あなたはもう、あの村に戻ることはできません。

「……かわいそうに」

あなたはこの事件にかかわったすべてを憐れみます。

ただ巻き込まれた司祭／マキシア。
不意に隣人が肉だと知ってしまった行商／シュクル。
愛するものを知らず踏み込ませてしまった魔女／リタ。
人を望んだのに、獣になってしまった新顔／ラウル。

「……お前も、望んだ結末はこんなものではなかったろうに」
あなたはひっそりと村を眺めながら、ひとりごちます。

もう、あなたが人に混じって生きることはないでしょう。
この村に戻れない以上。閉じたこの村に、もはや先がない以上。

人に見出した愛しさを抱えたまま。
それをもうどこにも持っていけないことに
一つ息を吐いて、あなたは森にかえりました。

+++++

END-D-5：『半ばにおいて』